ご卒業
おめでとうございます

日本工業大学後援会 会報

第123号

発行／日本工業大学後援会
埼玉県南埼玉郡宮代町学園台四―一
☎（〇四八〇）三四―四一一一（代）
令和七年三月十四日
http://nitkouenkai.jp/

後援会をご活用ください！

後援会会長　佐伯　直樹（A4富山）

早春の候、会員の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、後援会活動にご理解とご協力を頂いておりますことに、厚く御礼申し上げます。年が明けてから、各地での大雪が報道され、北陸・富山の地でも、忘れかけていた雪国であることを実感させられています。気象環境の変化が極端になる中で、不安に思いますが、何か備えることへのきっかけになればとも思います。

新しいことが始まる季節を迎えております。令和六年度の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんは、コロナ禍での入学、学生生活を経験され、コロナ禍を経て卒業を迎えられています。振り返れば、私たち親世代は、予測できないパンデミックの流れの中で右往左往させられていたように思いますが、学生の皆さんにとっては、コロナ禍があっても無くても、初めての大学の講義、初めての学生生活であり、すべてが新しい経験値として吸収し、本質を探りながら対応されてきたのではないかと思います。コロナ禍を経て、目まぐるしく変わる情勢であっても、変わらないもの、大学で学んだ学問であったり、実工学で身につけた技能・技術であったり、そして、課題に取り組み、解決する方法を活用して、ご活躍されることをご祈念申し上げます。

さて、後援会では、保護者の皆さまが、各学科の教授をはじめ教職員の皆さまと、単位取得状況や学校での様子について相談できる「地域別教育懇談会」を開催しました。三支部で地域開催、近県と他の地域を分け設定した大学開催でも、多くの皆さまにご参加いただきました。お話をされた後に少し不安が和らいだ雰囲気で帰られる様子を拝見することができ、改めて、この後援会の活動を多くの皆さまに知っていただきたいと思うところでございます。皆さま、お声かけ、お誘い合わせのうえ、引き続き、後援会活動へのご参加をお待ちしております。

ところで、会報をご覧いただいている皆さま、大学の学友門の道を挟んで向かいにある学友会館をご存じでしょうか。後援会会員（保護者の皆さま）は、一泊二五〇〇円で宿泊できます。食事の提供はございませんが、ビジネスホテルタイプの部屋になっており、地方からご子息、ご息女の様子を見に来られた時など、ご利用されてはいかがでしょうか。部屋数に限りはございますが、詳細など「日本工業大学後援会のしおり」を再度、ご確認いただければと存じます。

そして、学生生活の環境整備をお手伝いする特別事業に関しては、紙面の関係もあり、ご挨拶の中では割愛させていただきます。体育館冷暖房装置設置報告紙面をご覧ください。

最後になりますが、後援会の皆さまへの感謝と御礼を申し上げ、合わせて、今日まで学生の皆さんを温かく見守り、ご指導いただいた大学教職員の皆さま、並びにNITクリエイトさまをはじめ関連職員の皆さまに心より御礼申し上げます。

「学びは止まらない。好奇心をエンジンに！」

後援会副会長　香坂　一太（A4東京）

ご卒業おめでとうございます。

後援会役割の基本は、学生諸君の学習環境の整備、維持向上にあります。

活動中に先生方から繰り返し、後援会活動による植樹や校内設備への支援に深い感謝の言葉を頂きました。

社会人生活では企業のビジネス視点で物事を考えがちですが、後援会活動で学生諸君の視点から考えることで、現代社会の多くの課題点が見えました。後援会に参加する親も、教養を向上する良い機会になったと思います。

今年度から2年間にわたる特別事業は、体育館冷暖房装置の設置です。暑さ指数（WBGT＝温度・湿度・輻射熱）から、年間を通じて体育館が使えない日が激増している事実を知りました。本校は災害時の広域避難場所に指定されており、体育館を稼働設備として使えるようにしなければなりません。地球温暖化の影響は、これ程まで負担を強いるものかと実感しました。

茨城で行われた地域別教育懇談会にも参加しました。地方出身学生が減少している中、本当に丁寧にひとり一人の学生に対応する学校の姿勢に感動しました。親の役割の変化も実感しました。学生は既にデジタルネイティブであり、家族間でLINEやインスタグラムでつながっている人が多くいます。今や親は伴走者に近い存在。これも新しい発見でした。

茨城県支部での地域別教育懇談会の様子

後援会活動の様々な場面で、竹内学長をはじめ多くの先生方と会話が出来て本当に勉強になりました。流石に大学の先生は多士済々。特に学長からは、「様々な事に興味を持ち、好奇心を発揮し、チャレンジしてみる」ことの重要性を改めて学びました。

卒業生諸君はこれから実社会へと漕ぎ出す訳ですが、これからも本学で学んだ、様々な事柄に興味を持つ素直な好奇心と、実際に手足を動かして体験してみる実学の精神を忘れないで欲しいと思います。

製造業の自動化は既に実現しこれからも発展しますが、今後はＡＩ技術進展で文書領域の自動化が進むでしょう。急激な人口減少でＡＩ＋ロボットによる省力化は加速度的に進むと思われ、ロボティクスの開発運用保守を担う実工業の重要度は増々上がると思われます。しかし技術がどれほど進歩しても、素直な好奇心と柔軟な発想を持ち、何事かにチャレンジしていく決断が出来るのは人間だけです。若々しい好奇心がある限り、これからも学びは止まりません。

後に続く本学学生の善き見本となるべく、卒業する諸君の実社会での大きな活躍を祈念し、後援会活動の感想とさせていただきます。

令和6年度 地域別教育懇談会

大学会場、支部会場（茨城・群馬・北陸）にて4日間にわたり開催しました

令和6年度の地域別教育懇談会は、以下の日程で開催されました。

【支部会場】茨城県支部・群馬県支部　9月21日(土)、
北陸支部　9月22日(日)
【大学会場】近県（埼玉・東京・神奈川）　9月29日(日)
茨城・群馬・北陸・近県以外の全地域　10月20日(日)

大学会場に出席した近県以外の会員には、負担を軽減するため交通費を補助しました。参加人数などの集計表は左記の通りです。当日は個別面談でお子さんの大学での様子を先生から直接聞くことができて良かったという声をたくさんいただきました。

参加数集計表

近県（県別）

No	県名	出席組数	会員数
1	東京	30	404
2	埼玉	87	1,491
3	神奈川	2	28
近県合計		119	1,923

近県以外（県別）

No	県名	出席組数	支部名	会員数
1	青森	6	青森	36
2	秋田	2	秋田	9
3	岩手	2	岩手	10
4	山形	13	蔵王	50
5	宮城	5		
6	福島	10	福島	72
7	千葉	16	千葉	255
8	茨城	19	茨城	328
9	栃木	30	栃木	341
10	群馬	17	群馬	264
11	新潟	3	新潟	18
12	長野	14	長野	64
13	富山	4	北陸	12
14	石川	2		
15	山梨	5	山梨	28
16	静岡	4	静岡	20
17	三重	2	東海	7
18	岐阜	1		
19	兵庫	1	近畿	9
20	島根	1	中国	9
21	鳥取	2		
22	沖縄	1	沖縄	6
支部合計		160	合計	1,600

支部以外

No	県名	出席組数	会員数
1	福岡	3	5
2	宮崎	1	
3	愛媛	1	7
4	徳島	1	
支部以外合計		6	12

出席総合計	285	総会員数	3,473

個別面談の様子

支部ブースでは支部役員が大活躍

よろず相談コーナー

心の支えになった支部活動

蔵王支部支部長　棚井 めぐみ

入学当初、コロナ禍の影響で制約を受けていた支部活動。二年目より蔵王支部の活動に参加させていただきました。家族と離れ、一人暮らしをしなければならない物理的な距離がある地域です。成績や単位の問題、生活の不安、金銭的な悩み、アルバイト、就職、友達との関わり。娘と離れ心配が募り、さだまさしさんの曲を耳にしては涙が流れる日もありました。

前列一番左が棚井支部長

娘が「日工大に行きたい」と親にプレゼンをして選んで歩いてきた道。その道は、私が歩んでこなかった道でした。お互い初めてのことを一緒になって悩み苦しみ、時には嫌になったり、喜んだり。後援会活動に携わったからこそ、私自身にとっても第二の大学生活、娘の隣で一緒に体験できたことは何にも代え難い時間だったなと思います。また、他支部の皆さんとの交流も大変有難く、同じ状況下の皆さんとの情報交換は大変有意義なものでした。

今年度は役員として北陸支部の総会、地域別教育懇談会にも参加させていただきました。参加された保護者の皆さんは、先生との面談の後、もやもやしていた気持ちがスッキリした、と笑顔で会議室に戻られました。役員の皆さんの準備に加え、支部長のきめ細やかな事前対応のおかげで、面談は充足感いっぱいのものとなりました。加えて私は富山の町を満喫、さらに立山登山を楽しみ山形へ帰りました。

後援会活動はボランティアですから、蔵王支部は無理のない範囲での活動という考えが根底にあります。極力集まらずに、大学での理事会出席時の打合せ、ＬＩＮＥ等で連絡を取り合ってきました。そのなかで会員の皆様にどんな情報提供ができるか、一人の悩みは皆の悩み、を合言葉に相談会等を開催、保護者間の活発な情報交換もでき、来て良かった、悩みが少し軽くなった、などのご意見を頂戴し安堵致しました。

次から次に出てくる悩みは尽きないものの、それでも親子共々乗り越えてこられたのは、後援会と大学との繋がり、保護者同士の情報交換、相談に対する様々なヒントをいただいたおかげだと思っております。一緒に活動してくれた役員の皆様、そして後援会事務局の皆様。優しく朗らかな皆さんに支えてもらったこと、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。

会議開催の報告

令和6年11月16日(土)に役員会、支部長会、翌17日(日)に特別事業委員会、理事会、令和7年2月23日（日）に、役員会、特別事業委員会、理事会を大学において開催し、事業内容・予算などについて討議しました。理事会、支部長会には竹内学長にもご臨席いただいています。

4月13日（日）に今年度最後の役員会、理事会を開催いたします。

2月理事会の様子

令和6･7年度特別事業について

令和6年11月17日の特別事業委員会において、令和6年度、7年度の特別事業である体育館の冷暖房装置の視察を行いました。

現在は実際に体育の授業や部活動の際に活用されており「夏の猛暑の間も熱中症になる部員がいなかった」「以前は安全面を考えて活動できない日があったが、活動できる日が増えた」と学生からも好評を得ています。

特別事業委員会での視察

各支部が発行している支部会報

千葉県支部ではホームページも開設

後援会の支部活動に積極的なご参加を!!

日本工業大学後援会では、現在15の支部が活動しています。支部長をはじめとする支部役員が、後援会という伝統ある組織を受け継ぎ、その素晴らしさを伝えようと意欲的に活動しています。支部会員の皆様におかれましては、支部からのご案内が届きましたら、ぜひ積極的なご参加をお願いいたします。

また、一緒に支部活動を担ってくださるスタッフも大募集しておりますので、ぜひともよろしくお願いします。

令和6年度 支部長名簿 ※敬称略

	支部名	学科学年	支部長名
1	青森県支部	R4卒	野呂　敏子
2	岩手県支部	A3	佐藤るみ子
3	蔵王支部	R4	棚井めぐみ
4	福島県支部	D3	佐藤　　登
5	茨城県支部	R3	亀山　啓輔
6	栃木県支部	A4	永盛　伴子
7	群馬県支部	I3	西田　忠宏
8	千葉県支部	C4	和田　弘之
9	新潟県支部	I3	横山　正治
10	北陸支部	R3	清田　博明
11	山梨県支部	A4	清水　重喜
12	長野県支部	C3	井出　直利
13	静岡県支部	R4	伊藤　偉厚
14	近畿支部	R2卒	源本　将人
15	中国支部	H30卒	黒飛　光子

※秋田県支部、東海支部、沖縄県支部は活動休止中

こころとからだの相談ダイヤル

大学では、学生と保護者のための相談窓口を開設しました。健康相談、メンタルヘルスカウンセリング、法律相談が可能です。後援会はこの制度に対し100万円を補助しています。

24時間健康相談サービス
メンタルヘルス カウンセリングサービス
通話料無料 **0120-788-014**
URL
https://consult.t-pec.co.jp/service/788014

相談票をご利用下さい

後援会では会員の皆様にこの相談票を通じて、学生の成績・生活・就職等のご相談窓口を開いています。右の票（便箋、ハガキでも結構です）に相談内容をご記入の上、後援会事務局宛にご送付下さい。関係部署と連携して、可能なかぎり回答いたします。

相談票

学科学年	
学籍番号	

学生氏名	
会員氏名	
連絡先	TEL： MAIL：